



ひめゆり平和祈念資料館

# 資料館だより



第44号  
2009.11.30

## 目次

- 資料館トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・1  
ひめゆり平和祈念資料館開館20周年を迎える／  
2009年度ひめゆりの塔慰霊祭・レクイエムコンサート举行／  
開館20周年記念祝賀会開催／証言員への感謝状贈呈／  
「元ひめゆり学徒の戦争体験講話」開催／開館20周年  
記念平和講演会を開催／平和学習用教材を県内の中・  
高校へ寄贈／20周年記念特別企画展「ひめゆり学園  
(女師・一高女の歩み)」開催中／敷地内整備についての  
説明会開催／第2回ひめゆりガイド講習会開催／体験  
講話などの団体予約方法を変更／2009年度学芸員実  
習行われる
- 数字でふりかえる20年・・・・・・・・・・・・・・7
- 塔域の環境整備事業・・・・・・・・・・・・・・9
- 本棚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 資料館ガイド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

# 資料館トピックス

## >>> ひめゆり平和祈念資料館 **開館 20 周年** を迎える <<<



2009年6月23日の慰霊の日に、当館は開館20周年を迎えました。この日は、本土からの旅行者や修学旅行団体など通常どおりの来館者に加え、慰霊祭に列席されるご遺族やひめゆり同窓生のほか、県内の方々も多く入館していました。

20周年の節目にあたり、今年度は多くの周年事業を計画、実施していますが、多くの事業が6月～8月のこの時期に行われました。また、マスコミの取材も多く、6月前後の時期に、テレビや新聞などで特集が組まれ、当館の歴史や現在の活動の様子が紹介されました。

\*\*\*

当館は、財団法人女師・一高女ひめゆり同窓会によって1989年に設立されました。開館から20年の間に、入館者は1600万人を越え、平和学習の場として全国から年間2500余の学校が訪れています。開館以来、元ひめゆり学徒の証言員が、館内でひめゆり学徒隊の戦争体験を伝え続けてきました。また、企画展の開催、書籍の出版なども行い、沖縄戦の実相をより深く知っていただけるよう、活動してきました。

開館時に60歳前後であった証言員も、全員80代となりました。2004年には、戦争体験のない若い世代の人たちへも、より戦争の実態が伝わるように、全面的な展示リニューアルをおこないました。また、戦争体験の継承だけではなく、資料館の活動自体も次世代へと継いでいくことを念頭に、職員を増員し、あらゆる活動を、元ひめゆり学徒と戦争体験のない職員とが一緒になって取り組んできました。

多くのみなさまのご支援をいただき、20周年を迎えることができました。今後も、沖縄戦の実相を伝える場、知る場として、また命の大切さ、平和の大切さについて考えるきっかけの場となるよう、証言員、職員ともに活動を続けていきます。

### ◆ 2009年度 ひめゆりの塔慰霊祭、レクイエムコンサート 挙行



2009年6月23日に2009年度の慰霊祭が挙行されました。今年は、資料館の開館20周年事業の一環として、慰霊祭の前にレクイエムコンサートが開かれ、300人余の参加がありました。

レクイエムコンサートでは、ひめゆり同窓生のコーラスグループ「ひめゆりコーラス(27名)」によって「埴生の宿」「峠の我が家」「いはまくら」が合唱され、つぎに沖縄尚学高等学校合唱部(43名)によって「故郷」「別れの曲」「校歌(女師・一高女)」などが合唱されました。特にひめゆり学徒が戦場で口ずさんだ「故

郷」は、高校生と列席した同窓生との大合唱となり、亡くなった学徒、教師への慰霊とともに、平和への思いを新たにする歌声となりました。

今年の慰霊祭は、改修されたひめゆりの塔の前に、例年よりも多い600名の方の参列をもって挙行されました。真教寺の田原住職の読経、同窓生の弔辞などの後、参列者の焼香が行われました。レクイエムコンサートに出演した沖縄尚学高校の合唱部のみなさんは焼香が続く間、合唱を続けてくださいました。



## ◆開館 20 周年記念祝賀会開催



2009年6月6日、資料館の20周年を記念した「ひめゆり平和祈念資料館開館20周年祝賀会」が、那覇市首里のホテル日航那覇グランドキャッスルで行われました。毎年6月の第一土曜日は、女師・一高女の同窓生らが集まる「ひめゆり同窓会総会」が開催されていますが、祝賀会は、その第2部として行われました。

祝賀会では、まず初めに特別企画展「ひめゆり学園（女師・一高女）の歩み」の映像や開館から現在までの20年をまとめた映像を視聴しました。

また、財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会の理事長本村つるより、資料館で証言員として活動している元ひめゆり学徒生存者17名が初めて壇上で紹介され、20年間の活動の労をねぎらわれました。同じく同窓会事務局と資料館の職員も紹介されました。

本村理事長は、あいさつのなかで「女師・一高女という学校はなくなり、同窓生も年々減る一方ですが、財団と資料館は続いていきます。資料館が女師・一高女の歴史を継いでいく存在になります」と話しました。かつては母校再建を夢見ていた同窓生にとって、女師・一高女の歴史が資料館によって受け継がれていくということは、とても胸に響いたようで、聞きながら目を潤ませている同窓生の姿も見受けられました。同窓会会員と職員双方にとって、意義のある会になりました。

## ◆証言員への感謝状贈呈

当館では1989年の開館以来、元ひめゆり学徒生存者が「証言員」として来館者に戦争体験を語り、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さを訴え続けてきました。このたび、20年間に証言員として活動された30名の方に、財団より感謝状と記念品が贈られました。証言員の中には亡くなられた方もいらっしゃいますが、感謝状はご遺族にお届けいたしました。

証言員代表としてあいさつした宮良ルリさんは、「もう二度と戦争を起こしてはならないという気持ちで20年間、証言員としてがんばってきた。今後もいちだんとかんばっていきたい」と新たな決意を語っ

ていました。

感謝状贈呈者（1944年度の学年、五十音順）

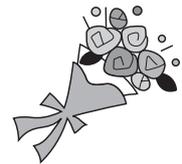
本科2年：石川幸子、伊波園子、大見祥子、喜納和子、平良緋手代（故）、富村都代子、福治秀子、  
本村つる、世嘉良利子（故）

本科1年：新垣世紀子、城間和子、津波古ヒサ、照屋信子、仲里正子、仲本幸子、比嘉文子、  
前野喜代、宮良ルリ

予科3年：上原当美子、島袋淑子、謝花澄枝、照屋菊子（故）、比嘉秀、与那覇百子

予科2年：宮城信子（故）

一高女4年：新崎昌子、大城信子、新里啓子、知念淑子、宮城喜久子



## ◆「元ひめゆり学徒の戦争体験講話」開催

2009年8月1日から8月20日まで、資料館多目的ホールで「元ひめゆり学徒の戦争体験講話」が開催されました。

資料館ではひめゆり学徒生存者である証言員たちが館内で展示説明を行う他に、入館される40名以上の予約団体を対象にして約30分の講話も行っています。しかし、その対象に当てはまらない個人の来館者から「体験者の講話を聞きたい」、「もっと長時間の講話を聞きたい」という要望が寄せられていました。そこで、個人旅行が多い夏休み期間中に開館20周年事業の一環として、1日午前・午後の各1時間「元ひめゆり学徒の戦争体験講話」を開催することになりました。

20日間の期間中、1回平均約60名、のべ2,300名余の方々が、元ひめゆり学徒たちの戦争体験講話を聞きました。

講師となった証言員たちは、ひめゆり学徒として戦場で体験したことはもとより、沖縄戦に至るまでの経過や、戦争が始まるまでの社会生活の様子、学校で受けた教育や軍歌をうたったことなど、自身の体験に基づいたさまざまお話を、1時間では足りないぐらいの熱意と意気込みで話しました。また、お友達が亡くなった時のことや、孫にはこんな体験は二度とさせたくないという思いを聞いて、聴講者が涙している姿も見られました。

夏休みということもあって、毎回家族連れの来館者が多数聞いておられました。多くは県外からの観光客の方でしたが、中には平和学習で来館した県内の小団体や、夏休みの学童保育の子どもたちもいました。小さな子どもたちも、じっと座って聞いている姿が印象的でした。当館の職員も、証言員たちの講話をじっくり聞く機会となり、これから資料館を受け継いでいく職員にとっても「伝える」ということを勉強する良い機会となりました。



## ◆開館 20 周年記念平和講演会を開催

2009年8月22日に那覇市のパレット市民劇場において開館20周年記念平和講演会を開催しました。当日は、立命館大学国際平和ミュージアムの名誉館長である安齋育郎氏の講演、沖縄尚学高等学校合唱部のレクイエムコンサートが行われ、約300人の方々にご参加くださいました。

講演「惑わしい世に生きる知恵と行動—世界の平和博物館とひめゆり平和祈念資料館」において安齋氏は、「だまし」や暴力が氾濫する現代社会において、私たち一人ひとりが、平和と自由、権利を守るために絶えず努力することが大切であるとお話しされました。手品をまじえた軽妙な話し方で、幅広い年齢層の参加者を最後までひきつけてくださいました。

参加者の皆様のアンケートには、「戦争は、人をダメす事によって始まる。人は簡単にダメせるという事は世界は、いつ戦争が起きてもおかしくない状態なんだなあと思いました。国民がしっかりしないと戦争は起こる。簡単そうで難しい。しかしやらないといけないと思います。」(10代男性)、「沖縄に生まれ、祖父母、両親より戦争の恐ろしさ、二度とはあってはいけないものとして教えられてきました(略)自分に対する無力さに悩んでいましたが、今日の話を書いて本当に心から救われました。」(30代女性)「一人の力は微力であるが無ではない事をつくづく肝にめいじた。」(70代女性)など、戦争を許さず平和のために努力する決意を新たにしたり、あるいはその勇気をもらったという感想が多数寄せられました。

また、レクイエムコンサートは美しいハーモニーを通して、亡くなったひめゆり学徒・教師に思いを寄せ、平和を希求する心を分かち合う場となりました。



## ◆平和学習用教材を県内の中・高校へ寄贈

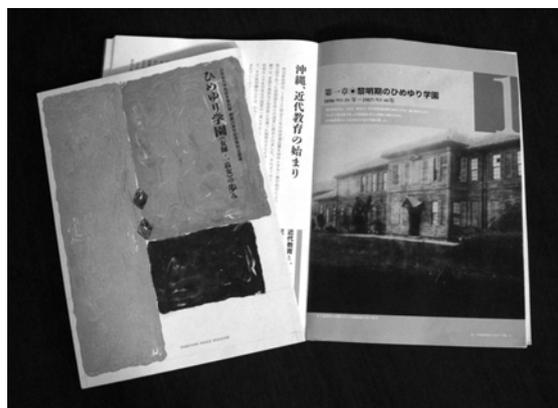


このたび開館20周年記念事業の一環として、平和学習に役立てていただこうと、県内中学校、高校189校に平和学習教材「沖縄戦とひめゆり学徒」(パネル)を寄贈しました。寄贈先の学校からは、「今後の平和学習に活用していきたい」「道徳の授業での利用を考えています」などの声を多数いただきました。

## ◆20周年記念特別企画展「ひめゆり学園(女師・一高女)の歩み」開催中

2009年6月1日から20周年記念特別企画展「ひめゆり学園(女師・一高女)の歩み」を開催しています。開館20周年を機に、当館を設立したひめゆり同窓生の母校である女師・一高女の歴史を振り返る企画展で、当時の制服(セーラー服、ヘチマ襟、標準服)の複製や学園模型、学籍簿(通知表)、校章等の実物展示や10分間のガイダンス映像などを通し、在りし日の女師・一高女の様子や学園生活が伝わるような内容になっています。

開催期間は2010年3月31日までです。また、図録『ひめゆり学園(女師・一高女)の歩み』も発行し、当館にて販売しております。お問い合わせはひめゆり平和祈念資料館 098-997-2100 まで。



## ◆敷地内整備についての説明会開催

2009年8月12日に、観光バスガイドや平和ガイド約50名を対象に、ひめゆりの塔周辺の環境整備に関する説明会を行いました。

まず、総務課職員から、ひめゆりの塔周辺の環境整備の目的を説明した後、整備、改修を行った箇所を実際に歩いて確認しながら、それぞれの整備の趣旨などを説明しました。参加者からは、案内する立場や来訪者の視点からの質問や意見があり、情報交換のよい機会にもなりました。

\*塔周辺の整備事業については、9ページからの特集をご覧ください。

## ◆第2回 ひめゆりガイド講習会開催

2009年9月25日に当館多目的ホールにおいて、第2回ひめゆりガイド講習会を開催しました。日ごろ多くの観光客や修学旅行生を案内し、当館に来館される平和ガイドやバスガイド、タクシー運転手のみなさんに、より深くひめゆりを知ってもらいガイドに活かしてもらおうと企画したものです。各ガイド団体、バス・タクシー会社などに参加を呼びかけ、48名の方々が参加されました。また、当館の証言員もオブザーバーとして参加しました。

今回は、「ひめゆり学園(女師・一高女)について」、「南部撤退後のひめゆり学徒隊」、「伊原第三外科壕とひめゆりの塔」、「ひめゆりの塔域の環境整備について」の4つのテーマについて、学芸課職員の5名が分担して説明を行いました。前回ガイド講習会を開催した際に、アンケートで「具体的な各戦跡の説明をしてほしい」との要望が多かったため、今回はひめゆり学徒の南部撤退後の戦跡に重点を置いた内容

となりました。

最後の質疑応答の時間には、参加者のみなさんに、ひめゆり学徒隊に関するガイドを行う上で疑問に思



うことや説明が難しいこと、困っていることなどを質問用紙に記入していただき、寄せられた質問や要望にお応えしました。すぐに解決できないような質問も出ましたが、多くの問いを参加者全員で共有することができました。最後に、参加者のみなさんに修了証を配布して、2時間半の講習会は閉会しました。

発表に際しては未熟な点がまだまだたくさんあり、反省も多かったですが、回を重ねるごとにガイドのみなさんとの距離も縮まるような気がしています。今後も精力的に開催していきたいと考えています。

## ◆体験講話などの団体予約方法を変更

当館では、予約団体を対象に多目的ホールで元ひめゆり学徒による戦争体験講話を行ってきましたが、2009年8月申し込み分より、団体予約の受付方法をこれまでと変更し、体験講話の開始時間を定時化しました。

開館から20年を経た現在、証言員（元ひめゆり学徒）は全員80代となりました。これから先もできるだけ長く体験講話を続け、ひとりでも多くの方々に戦争体験をお話する機会が持てるような仕組みづくりの一環としてなされたものです。

申し込み方法も従来の電話、FAXによる受付に加えホームページからも行えるようになり、申込書のひな形を改めるなどの合理化をはかりました。

\*多目的ホールの利用については、15ページの資料館ガイドもご覧ください。

## ◆2009年度学芸員実習行われる

2009年10月6日から、琉球大学の石谷ななさん、嘉数聡さん、原田まゆさん、宮城良真さんの4人が、当館で学芸員実習を行いました。

実習期間は約10日間で、実物資料の整理作業、証言音声データの文字起こし、ワークシートの作成、感想文部会では感想文の読み込みを行い、記録部会では20周年記念誌の編集作業に参加してもらいました。フィールドワークとして、南風原の陸軍病院壕の周辺や、資料館周辺の山城本部壕、伊原第一外科壕、伊原第三外科壕、荒崎海岸などを訪れ、当時を体験する機会を設けました。

毎日実習終了後に提出していただいたそれぞれの実習記録には、作業を通して感じたこと、考えたことや、当館への提言などが丁寧に記されていました。さらに、実習生たちは証言員の方々にも積極的に話しかけ、戦争体験にとどまらないさまざまなものを吸収し、熱意のこもった実習になっていました。

実習生の皆さんは、ひとつひとつの仕事をきちんとなし、証言員や職員とも誠実に向き合った姿勢を大事にし、それぞれの将来に活かしてほしいと思います。



# 数字でふりかえる 20年

## 略歴譜

1989年	開館	ひめゆり平和祈念資料館開館
1990年	1年	開館1周年記念「ひめゆりの青春」展を開催
1991年	2年	開館2周年イベント「戦跡めぐりーひめゆり学徒隊の足跡」を実施 (以後毎年6回まで実施)
1992年	3年	多目的ホール落成
1993年	4年	
1994年	5年	開館5周年記念座談会「次の世代に平和をどう継承していくか」開催 開館5周年映像作品「平和への祈りーひめゆり学徒の証言」制作
1995年 (戦後50年)	6年	終戦50年 仲宗根政善館長逝去 亡きひめゆり学徒の戦後50年目の仏前供養実施
1996年	7年	
1997年	8年	
1998年	9年	
1999年	10年	開館10周年記念イベント「平和祈念コンサート」開催 開館10周年記念イベント「沖縄戦の全学徒たち」展開催
2000年	11年	
2001年	12年	企画展「仲宗根政善ー浄魂を抱いた生涯」開催
2002年	13年	「女師・一高女跡」碑建立
2003年	14年	企画展「ひめゆり学徒の戦後」開催
2004年	15年	展示の全面リニューアル実施
2005年 (戦後60年)	16年	企画展「沖縄陸軍病院看護婦たちの沖縄戦」開催 戦後60年 朗読「平和への祈りーひめゆりの伝言」開催
2006年	17年	
2007年	18年	「仲宗根政善先生 生誕百年記念シンポジウム」を共催
2008年	19年	「ひめゆりガイド講習会」開催 「証言員一人ひとりの戦跡めぐり」開始(2009年12月までの予定) 日本平和博物館会議に加盟
2009年	20年	伊原第1外科壕の学術調査を実施 平和学習教材・パネル「ひめゆり学徒と沖縄戦」県内中学校・高校へ寄贈 開館20周年記念特別企画展「ひめゆり学園(女師・一高女)の歩み」開催 レクイエムコンサート ひめゆりの塔改修・塔域の環境整備を行う 「元ひめゆり学徒の戦争体験講話」開催 開館20周年記念平和講演会開催 20周年記念誌発行予定



多目的ホール落成以前は、玄関脇の芝生で講話を行っていました



「沖縄戦の全学徒たち」展



リニューアルオープン 2004年4月



ひめゆりの塔改修 2009年6月

## 入館者数

- 総計 … **16,521,157**人 (1989年6月23日～2009年6月30日)

2008年度は81万6千745人が入館しました。ひめゆり平和祈念資料館は、日本の平和博物館のなかでは広島平和記念資料館の135万7千233人(2008年度)について入館者の多い資料館です。

- 1日の入館者数 … 平均 約**2,300**人

最大 7,207人 (2005年12月7日)

最小 338人 (2000年7月20日)

(※1997年4月1日～2009年6月30日現在)



1500万人達成 2007年9月29日

## 資料館証言員・職員数及び講話回数

- 証言員 … **30**名 (※20年間に活動された方)

一番証言員が多かったのは1992年度～1994年度の28名。現在は17名が活動しています。20年間で減る一方ではなく、何度か新メンバーを迎えています。

- 講話の回数 … 約**4,519**回 (1995年～2008年度までの14年間)

- 職員 … 1989年 **6**名 → 2009年 **15**名 (※館長含む)

開館当初6名だった職員は、現在15名にまで増えました。資料館活動を元ひめゆり学徒から次の世代へ引き継ぐことを念頭に、2005年度以降、積極的に職員を採用してきました。



## 寄せられた感想文の数

- 総計 … **403,504**枚 (2009年3月31日現在)

1年間で平均20,000件前後の感想文が資料館に寄せられます。寄せられた感想文は感想文部会で月ごとに読み込み、1年ごとに『感想文集』にまとめています。



感想文を収めた棚



『感想文集 ひめゆり』20冊

## 刊行した本の数

### 16点

公式ガイドブックや企画展の図録のほか、資料集など、20年で16点の書籍を刊行しました。また、『年報(館報)』、『資料館だより』といった逐次刊行物も発行しています。



20年で刊行した16点の書籍



年報・館報  
- 計20冊 -

資料館だより  
- 計44号 -

## 塔域の環境整備事業

開館20周年事業の一環として、2009年5月から10月にかけて、ひめゆりの塔の改修と敷地内の外構整備が行われました。今回の改修と整備は、ゆったりとした空間で平和について考えるための環境づくりと、ひめゆりの塔とひめゆり平和祈念資料館とを、未来へ継承していくというコンセプトのもと、①ひめゆりの塔の改修、②案内板の設置、③資料館出口側道路の設置、④植栽整備の4つの整備事業がおこなわれました。

\*\*\*

### ①ひめゆりの塔の改修

ゆりのレリーフのついてい  
るひめゆりの塔は、1957（昭和32）年に建てられました。50年余を経て劣化が進んでおり、改修・補修の必要性が生じていました。半世紀あまり大切にされてきたこのひめゆりの塔をこの先も大切に残していくことを念頭に、今回、補修と改修を行いました。

まず、コンクリート建造物の劣化を抑え、長期間保存できるように、大理石で塔全体をおおいました。大理石は自然の素材で、コンクリートに比べて長期間の保存に耐えるため、この先も、補修などで手を



をかけずに済みます。また、大理石の色は、塔が建てられた当初と同じく、白としました。

また、コンクリート製のゆりのレリーフも劣化がすすみ、一部割れるなどの損壊がみられました。そこで、レリーフを取り外して補修をした後、型をとり、同じ形のレリーフを新しく制作しました。新しいレリーフは、耐久性を考慮してブロンズ製となりました。現在は明るいグリーンですが、時間の経過とともに、ブロンズ色になっていきます。ゆりのレリーフの新装は、美術家の西村貞雄氏によって行われました。

さらに、刻銘板を新しくしました。ひめゆりの塔には、1974（昭和49）年に取り付けられた黒御影石の刻銘板がありましたが、その刻銘板にはその後判明したひめゆり学徒の死亡者が刻銘されていませんでした。今回新しくするにあたり、現在判明しているひめゆり学徒の死亡者、227名全員の刻銘をおこないました。刻銘の文字を以前より大きくし、ひとりひとりのお名前が見えやすいにしました。今回の刻銘板の設置で、亡くなった方全員の名前を刻銘しなければ、というご遺族や学徒生存者の強い願いが果たされることになりました。

また、ひめゆりの塔の新装にともない、老朽化が進んでいた伊原第三外科壕を囲む柵と献花台を新しくしました。

## ②案内板の設置

訪れた方がどなたでも、ひめゆりの塔やひめゆり学徒隊についての概要がわかるように、敷地内に案内板（「施設案内」）と説明板（「沖縄戦とひめゆり学徒隊」）を設置しました。

案内板「施設案内」には、資料館を含む敷地の全体図と、ひめゆりの塔、ひめゆり平和祈念資料館の概要などが記されています。説明板「沖縄戦とひめゆり学徒隊」には、ひめゆり学徒隊の動向を示した地図と、ひめゆり学徒隊の動員から解散後までの概要が記されています。さらに、ひめゆりの塔周辺の関連する戦跡地図も掲載しています。

敷地内には、ひめゆりの塔以外にも慰霊碑などがありますが、それらの側にも、簡単な説明を記したプレートを設置しました。伊原第三外科壕の側（ひめゆりの塔に向かって左手）に設置した説明板には、柵内の碑の位置を示した図と簡単な説明がついています。

今回設置した案内板、説明板には、全て英語訳を付けました。



## ③資料館出口側通路の設置

修学旅行などのピーク時には多くの方々が訪れ、敷地内の混雑が激しくなることがありました。混雑の解消をはかるため、資料館出口側に専用通路を設けました。木々の中を抜けて、再びひめゆりの塔前へ至るルートになっており、資料館見学後の思いを自然の中で回想する場になればとの思いも込めています。



## ④植栽整備

ひめゆりの塔を訪れる方々が、落ち着いた環境で沖縄戦を学び、平和について考えていただけるよう、また、木陰をつくるという目的で、相思樹、フィカスハワイなどの植樹を行いました。

## ⑤その他

敷地内の混雑の解消のため、以前は植栽で仕切られていた空間を解放するなどして空きスペースを広くつくりました。また、入館者の待ち合わせなどに利用していただけるよう、資料館の門を入った左手にパーゴラを設置しました。



巡らされた横穴壕にベッドを備えただけの施設で、砲煙弾雨の中、学徒は医師と看護婦の下、負傷兵の看護や水汲み、伝令、食糧運搬などを担いました。

4月1日の米軍上陸後の激しい戦闘により負傷兵が急増し、3つの分室ができていきます。

### 撤退

5月下旬、米軍の攻撃が日本軍司令部のある首里まで迫り、5月25日、軍の南部撤退命令により、陸軍病院も南部への撤退が始まります。

学徒たちは砲弾と悪路の中をこの南部までたどり着きます。病院としての機能を失った後も6つの壕に分散して避難し、伝令や水汲み、食糧確保の任務に当たりました。

### 解散

6月18日夜、緊迫した戦況の中でひめゆり学徒に突然「解散命令」が下されます。

激化する戦場で、負傷した学徒は壕に残され、外に放り出された学徒たちは、砲弾の飛び交う中、逃げまどい、追い詰められ、多くの命が失われました。

### ひめゆりの塔周辺戦跡図

ここ沖縄本島南端は沖縄戦終盤に、多くの住民や学徒や兵士が追い詰められ、犠牲となったことにより戦跡と慰霊碑が数多く存在します。

この地図はそのうちのごく一部です。

解散命令後、弾雨の中、ひめゆり学徒たちはさらに南端の海岸へと追い詰められていきました。米軍による一方的な掃討戦の中で、ある者は砲弾に倒れ、ある者は波にのまれ、そしてある者は手榴弾によって自決しました。いつ、どこで亡くなったか消息不明の学徒もいます。

爆弾が投げ込まれ多くの学徒が亡くなった伊原第三外科壕には「ひめゆりの塔」が、学徒たちの自決現場となった荒崎海岸には「ひめゆり学徒散華の跡碑」が建てられています。

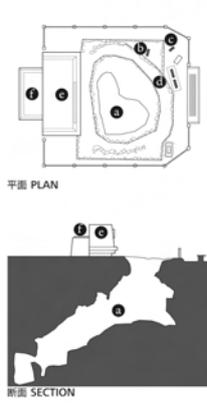
## ひめゆりの塔

### ①伊原第三外科壕

このガマ（自然洞窟）は沖縄戦時、南風原町にあった「沖縄陸軍病院」第三外科配属の軍医、看護婦、ひめゆり学徒たちが、南部への撤退後に避難した場所。1945年6月19日朝の米軍の攻撃（黄燐弾や手榴弾など）により、ガマに入っていた96名中81名（うち42名がひめゆり学徒と教師）が亡くなった。

ひめゆり学徒の最期の地のひとつである。

#### ひめゆりの塔 Himeyuri-no-Tou (Himeyuri Cenotaph)



平面 PLAN

断面 SECTION

①「伊原第三外科壕」 Ihara Third Surgical Cave 1946  
このガマ(自然洞窟)は沖縄戦時、南風原町にあった沖縄陸軍病院第三外科配属の軍医、看護婦、ひめゆり学徒たちが、南部への撤退後に避難した場所。1945年6月19日朝の米軍の攻撃により、ガマに入っていた96名中81名(うち42名がひめゆり学徒と教師)が亡くなった。ひめゆり学徒の最期の地のひとつである。

The Third Surgery Department medical staff and Himeyuri students at the Okinawa Army Field Hospital in Hasbaru escaped into this natural cave after they retreated to the south. Here, on the morning of June 19, 1945, out of 96 who hid in the cave, 81 personnel, including 42 Himeyuri students and teachers, lost their lives in an attack by the U.S. military. This cave is one of the sites where Himeyuri students' lives ended.

②「ひめゆりの塔」 Himeyuri Cenotaph 1946  
沖縄戦で亡くなった女師・一高女の教師・学徒の慰霊碑。終戦翌年、付近の収容所にいた真和志村民により建立された。This cenotaph is dedicated to the Himeyuri students and their teachers who died in the Battle of Okinawa. It was erected in 1946, a year after the war ended, by the people of Mawashi Village, who were in a refugee camp near this area.

③「いわまくら碑」 Iwamakura Monument 1946  
学徒隊引率教師であった仲宗根政善氏が、第1回ひめゆりの塔慰霊祭(1946年4月7日)で戦死した教え子を悼み霊前に捧げた歌。

Inscribed on this monument is a Japanese poem (tanku) created by Mr. Seizen Nakasono, one of the Himeyuri teachers who accompanied their students. Mr. Nakasono dedicated this poem at the first Himeyuri-no-Tou memorial service for the war dead on April 7, 1946, mourning his deceased students.

④「刻銘碑」 Stone Inscription 1947  
女師・一高女の教師・学徒戦死者の刻銘碑、戦後間もない頃に建てられたため、戦死者全員は刻まれていない。Inscribed on this monument are the names of Himeyuri students and their teachers who died in the war. Erected right after the war, the stone doesn't bear the names of all the victims.

⑤「ひめゆりの塔」 Himeyuri Cenotaph 1957 / 2009  
1957年(戦後19年忌)に建立された新しいひめゆりの塔。納骨堂を覆った白壁には、学徒戦死者の名前を刻み、女師・一高女のシンボルである百合のレリーフを手向けた。2009年、塔を未来永劫に残す願いをこめて改修し、戦後64年の間に判明した学徒戦死者も追記した。納骨堂にはこの洞窟(伊原第三外科壕)や伊原第一外科壕、荒崎海岸など沖縄戦最期の地から収集された遺骨が眠っている。This new Himeyuri Cenotaph was erected in 1957 for the 13th anniversary of the end of WWII. The names of students who died in the war are inscribed on the white wall of the ossuary. The wall is also decorated with the relief of a lily (yuri in Japanese), the symbol of the two women's high schools nicknamed Himeyuri. In 2009, the cenotaph was remodeled in hopes of perpetuating the students' memory. The names of the Himeyuri students confirmed dead through our 64-year research after the war have been added in the current inscription. Remains found in this cave (Ihara Third Surgical Cave), as well as in other caves known to be final sites of the Battle of Okinawa, such as Ihara First Surgical Cave and Arasaki Coast, also rest in the ossuary.

ひめゆり平和祈念資料館  
HIMEYURI PEACE MUSEUM

- 12 -

⑥ 「ひめゆりの塔」 1946

沖縄戦で亡くなった女師・一高女の教師・学徒の慰霊碑。  
終戦翌年、付近の収容所に収容されていた真和志村民により建立された。

⑦ 「いはまくら碑」 1946

学徒隊引率教師であった仲宗根政善氏が、第1回ひめゆりの塔慰霊祭（1946年4月7日）で戦死した教え子を悼み霊前に捧げた歌。

⑧ 刻銘碑 1947

女師・一高女の教師・学徒戦没者の刻銘碑。戦後間もない頃に建てられたため、戦没者全員は刻まれている。

⑨ 「ひめゆりの塔」 1957 / 2009

⑩ 「納骨堂」 1948

1957年（戦後13年忌）に建立された新しいひめゆりの塔。納骨堂を覆った白壁には、学徒戦没者の名前を刻み、女師・一高女のシンボルである百合のレリーフを手向けた。  
2009年、塔を未来永劫に残す願いをこめて改修し、戦後64年の間に判明した学徒戦没者も追記した。納骨堂にはこの洞窟（伊原第三外科壕）や伊原第一外科壕、荒崎海岸など沖縄戦最期の地から収集された遺骨が眠っている。

\*\*\*その他の説明板\*\*\*

赤心之塔 1948

伊原第三外科壕に入っていた民間人（大田家）5名の戦没者の慰霊碑。遺族によって建立された。

女神の像 1951

鳥取県倉吉市の医師伊藤博氏寄贈。

井伊文子の歌碑 1959

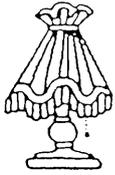
滋賀県彦根市の琉球王朝末裔井伊文子氏によって詠まれた歌。

ひめゆりの石像 1956

静岡県湖西町の瓦職人鈴木啓治氏寄贈の石像。想像でつくられたため、当時の学徒の姿とは異なっている。



井伊文子の歌碑（奥）と説明板



# 本 棚

(元琉球大学教授 仲程昌徳)

## 目取真俊著 『目の奥の森』

事件が起ったのは、本島北部の小さな離島。子供たちが、浜に下りて、浅瀬で貝をひろっている所へ、対岸から泳ぎ出してきた四人組の米兵が現われ、逃げ出した子供たちの一人を無理やり灌木の茂みへ連れ込む。

北部での戦闘は既に止み、戦線は中南部へ移動していて、人々が村に帰って生活を始めたばかりのところその事件は起こった。そしてそのあと、すぐに新たな事件が発生する。新たな事件とは、防衛隊の一員として戦い、捕虜になり、その後、村に戻っていた少年が、暴行事件のあと再び島に向けて泳いでくる四人組を銃で襲い、兵士の一人に重傷を負わせ、島の洞穴に隠れる、といったものである。

米軍は、村の人々に応援を頼むと同時に、兵士たちを動員し、少年を洞穴から誘い出し、基地に連行し、尋問を行う。少年の襲撃は、日本軍の指喉(しそう)によるものではないかと推測し、少年を問い詰めるが、少年の言葉は意味をなさず、理解できない。

米軍は、少年を探し出す時先頭にたって協力した村の区長を訪れ、事件の聴取を行なう。その最中、近くにいた女性が、少年の行為は、日本軍の命令などによるものではなく、好きだった少女のためになされた極めて個人的な行為であったと明言するとともに、四人組の非道な行為を訴える。米軍は、女性の話が事実かどうかを区長に確かめたあとで、少年を解放する。少年は、催涙ガスと事後の処置が適切になされなかったため視野を失う。

本書は、凌辱された少女を好きだった少年が、犯行に及んだ米兵たちを襲い、傷つけるといったもので、その限りでは、戦時中に起った一種の復讐劇といってもいいが、単なる復讐劇とは一線を画するものとなっている。

米兵の暴行と、彼らを襲い、森の中に逃げ込んだ少年の場面(1)からはじまる物語は、事件から六〇年後、市の教育委員会に勤めている女性が、その事件に関する聞き取りを当時区長を勤めていた人

から行う場面(2)事件当時、浜辺に一緒にいた少女の一人が、六〇年ぶりに、やはり一緒に浜辺にいた同級生を誘い島を訪れる場面(3)、米兵を襲撃した当人の当時の回想と今はどこへいるか分からない陵辱された女への呼びかけの場面(4)、銃で突かれた祖父の孫から、沖縄の海へ銃の切っ先で作られたペンダントを沈めてほしいと依頼された男が、さらに大学時代知り合った沖縄出身の男へ、そのペンダントを送ってくる場面(5)、少女を暴行した兵士の事件現場の回想場面(6)、暴行された姉の話を、その妹が慰霊の日の特設授業で語る場面(7)、介護施設に入っている姉を見舞う妹の場面(8)、事件当時少年の尋問の通訳に当たった二世兵士の回想(9)といったように、多様な語りを重ね合わせ、事件を多面から浮き彫りにしていくといったかたちを取っているのである。

事件は、どう語られなければならないかをそれは示唆したものであったし、また事件から六〇年たって、戦時に起った出来事が語られる意味は、一体どこにあるかを問うてもいたが、さらに、新たな問題を突き出してもいた。その一つが、慰霊の日の特設授業の場で、一番熱心に話を聞いているように思われた生徒が、いじめにあって心身ともに追い詰められた状態にあるといったものである。彼女には彼女のために、身を投げ出して何かをやってくれる者がいるようにも思われないことからすると、平和だとされる中であって、戦時の事件以上に陰惨なことが起こっているといえるのではないか、という問いである。

作品が問いかけているのはそれだけにとどまらないが、戦時に起った一連の事件が、六〇年たってその真相が明らかにされていく物語には、大切な軸があった。痛切きわまりない物語であるにも関わらず、それが必ずしも絶望的な思いを誘発するものでないのは、深く傷ついた事件の当事者であった二人の心の声が、響きあうかたちになっているからである。その意味でいえば、作品は、至上の愛の物語と断言してもいいものであった。

# 資料館ガイド

## ◆資料館ご利用案内

- ①入館受付 午前9時～午後5時 閉館 午後5時25分
- ②休館日 年中無休
- ③入館料 大人¥300 高校生¥200 小・中学生¥100  
団体20名以上 10%引き
- ④交通 那覇から糸満市行きバス<sup>⑧</sup>で約30分、さらに糸満バスターミナルから<sup>⑧</sup><sup>⑩</sup><sup>⑪</sup>のバスで約15分、ひめゆりの塔前バス下車。

## ◆多目的ホール利用の手引き

- ①多目的ホールでは、元ひめゆり学徒の講話（約30分）や証言ビデオ（25分）を視聴することができます。
- ②ホールの予約は、1年前（その月の1日）から受付します。  
→例：来年10月31日までの受付は、今年10月1日受付開始。
- ③講話については、1日の回数が2回（1回40名以上）となります。  
毎週月曜日、講話は休みで、ビデオのみの予約受付となっておりますのでご了承ください。
- ④講話の時間帯 10：00 11：00 12：00 13：00 14：00 15：00  
ビデオの時間帯 09：00 10：00 11：00 12：00 13：00 14：00 15：00 16：00
- ⑤ご予約は空き状況をご確認後お申込みください。受付は先着順で、電話もしくは資料館窓口でお願いします。
- いずれの場合も確認の為、指定申込書にてFAX又はWEBにてお申込みとなります。
- ⑥ホールの収容人員は200人（席）です。
- ⑦ホールの利用は、入館していただく場合に限りです。また、講話・ビデオ以外には使用できません。
- ⑧講話は原則として当日の当番の証言員が対応します。講師謝礼及び施設使用料等は頂いておりません。
- ⑨年末年始（12月30日、31日、1月1日～3日）・旧盆（旧暦7月13日～15日）は、証言員が休みの為講話はできません。また、慰霊祭前後（6月21日～24日）は、ビデオ上映会を行いますので、予約はできません。
- ⑩ホール予約の方は、来館当日、窓口にご旨お知らせ下さい。

## ◆視聴覚室のご利用について

- 下記についてビデオを視聴することができます。
- ◇「平和への祈り－ひめゆり学徒隊の証言」（25分）
  - ◇「仲宗根政善－浄魂を抱いた生涯」（30分）
  - ◇「ひめゆり学徒の戦後」（33分）
  - ◇「戦火に消えた21の学園」（26分）

---

ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより 第44号

2009（平成21）年11月30日発行

編集・発行 （財）沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会立ひめゆり平和祈念資料館

資料館 ☎ 901-0344 沖縄県糸満市字伊原 671-1 ☎ 098-997-2100

財団事務局 ☎ 902-0067 沖縄県那覇市安里 388-1 ☎ 098-884-1115

URL <http://www.himeyuri.or.jp/>

---